勝谷地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年８月１７日（月）　１９：００～２０：２０
２　会　場　勝谷地区公民館
３　出席者　地元出席者　　２４名
市側出席者　　１７名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進監、田中企画推進部長、大田経済観光部長、藤井都市整備部長、久野地域振興監、高橋秘書課長
＜鹿野町総合支所＞徳岡支所長、竹間副支所長（司会）、上野市民福祉課長、乾産業建設課長
＜事務局＞馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、酒本協働推進課主任

４　中核市移行についての説明
（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン（素案）についての説明
（企画推進部長）※チラシに基づき説明

６　地域の重要課題について
１　「気高道の駅（仮称）」整備について
＜地域課題＞
山陰自動車道鳥取西道路の開通に伴い、勝谷地区内に計画されている「気高道の駅（仮称）」に対する住民の関心は高く、地域活性化への期待も大きい。
今年４月に開催された基本構想・基本計画市民説明会では、公設民営方式と聞いているが、概要の説明をお願いしたい。
また、地域との連携を強化し、地域活性化の核となる施設としての整備を望む。

＜担当部局の所見等＞
【都市整備部】
平成２５年度に鳥取市西商工会を主体とする地域の皆様から、鳥取西道路開通に合わせた新たな道の駅整備の要望が提出されました。
これを受けて本市においては、鳥取市西地域の振興とまちづくりの拠点づくり、全市的な観光振興や経済波及効果の向上等を目指すため、平成２６年度に鳥取市「気高道の駅（仮称）」整備基本構想・基本計画（案）を策定しました。
平成２７年４月１５日～５月１５日に、基本構想・基本計画（案）に対する市民政策コメントを募集し、平成２７年４月２７日に鹿野地域、４月３０日に気高地域、５月１日に青谷地域と、鳥取市西地域３か所で市民説明会を開催したところであり、全体的に事業推進に前向きなご意見を多くいただきました。

現在、この案を基に事業化に向けて国・県等の関係機関と協議・調整を行っているところです。事業化の際には、改めて概要をご説明したいと考えています。

（都市整備部長）

平成２５年１１月に、鳥取市西商工会を主体とする地域の皆様から、鳥取西道路の開通に合わせた新たな道の駅整備の要望が提出されました。これを受け本市では、鳥取市西地域の活性化につながる新たな拠点づくりを進めるため、平成２６年度に、鳥取市「気高道の駅（仮称）」整備基本構想・基本計画（案）を策定しました。

この基本構想・基本計画（案）については、本年４月１５日から５月１５日に市民政策コメントを実施して広く市民の皆様からご意見をいただきました。また、４月２７日に鹿野地域、４月３０日に気高地域、５月１日に青谷地域と、鳥取市西地域の３か所で市民説明会も開催しました。全体的には、事業を進めることに前向きなご意見を多くいただいています。現在、この案をもとに事業化に向けて国・県等の関係機関と協議・調整を行っているところです。事業化の際には、改めて概要をご説明したいと考えています。

（地元意見）

私達は、道の駅が地域活性化の核になってほしいという希望を持っているが、道の駅というのは、往々にして休憩ポイント、通過点になってしまうと思います。

勝谷地区だけでなく、その先の鹿野地区にも、観光名所や歴史に関する施設などがたくさんあるが、通過してしまって鹿野町全体の集客がなくなれば、活性化どころか、施設等が非常にダメージを受けることになるため、道の駅を「一通過点」にとどまらせたくないという思いがあります。

現在の鹿野三朝ルートは非常に難所ですが、このルートを活用し、道の駅を降りたら三朝町に行ける、または倉吉から降りた人が三朝町を通って鹿野町に流れてくるといった、人の流れ、自動車の流れを何とか検討してほしいです。現状は、冬季は通行が困難な道路なので難しい面もあるとは思うが、道の駅による活性化を期待してはいても、それによって人の流れが途絶えることがあってはならないという思いが強いのです。

（経済観光部長）

昨年度、ジオパークが青谷地域まで拡大したこともあり、鳥取市西いなば地域振興協議会では現在、道の駅から地域の中にいかに人を入れ込むかといったことも含めて、地域資源を活用した観光の進め方についての議論を進めています。また、三徳山と三朝温泉が日本遺産に登録されたこともあり、中部との広域的な連携も深めています。鳥取因幡Ｇバスツアーには、中部から鳥取市を結ぶコースもあります。さらに今後は、京都まで連携していきたいと考えています。

今後も、地元の皆様や商工会等も含めて、取り組みを進めていきたいと思っています。

≪鳥取因幡Ｇバスツアーとは≫

鳥取因幡地域の良い所を３種類のコースで回る期間限定のバスツアー。Ｇｒｅｅｎ（グリーン）コース、Ｇｅｏ（ジオ）コース、Ｇｅｎｆｕｋｅｉ（原風景）コースがある。

２　山陰自動車道と企業誘致について

＜地域課題＞

住民は、生活に直結する山陰自動車道の早期開通を待ち望んでいる。

平成２９年度末には吉岡温泉ＩＣ（仮称）～青谷ＩＣ間が開通予定とのことだが、現在の進捗状況と今後の予定を詳しく説明していただきたい。また、鳥取西ＩＣ～吉岡温泉ＩＣ（仮称）間の開通が通勤時間の短縮等生活に大きく影響することもあり、本区間の計画について伺いたい。

なお、勝谷地区にインターチェンジの開設が予定されており、若者の定住対策として、工業団地の造成と積極的な企業誘致をお願いしたい。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

事業者である国交省に確認したところ、下記のとおり回答がありましたのでお知らせします。

[国交省回答]

吉岡温泉ＩＣ（仮称）～青谷ＩＣ区間については、用地買収及び埋蔵文化財調査が平成２７年度までに完了し、工事が順調に進めば平成２９年度中に開通可能と考えており、現在、鳥取県および鳥取市において、埋蔵文化財調査を鋭意進めていただいているところです。

工事については、用地買収・埋蔵文化財調査が完了したところから工事着手しているところであり、鹿野町付近では「トンネル工事」「橋梁工事」「改良工事」などの工事を実施しています。

引き続きご迷惑をおかけするかとは思いますが、安全に工事を進めてまいりますので、引き続き地元の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

また、鳥取西ＩＣ～吉岡温泉ＩＣ（仮称）区間については、用地取得に向けた関係者との協議を実施しているところであり、用地買収および埋蔵文化財調査が完了したところから工事着手し事業を進めているところです。

吉岡温泉ＩＣ（仮称）～青谷ＩＣ区間については、国交省において、平成２９年度開通に向けて鋭意事業進捗が図られており、本市としても、事業推進に向けて関係機関との調整を進めていきたいと考えています。

また、鳥取西ＩＣ～吉岡温泉ＩＣ（仮称）区間も、平成２９年度中に一体供用が行われるよう、国交省に対し、引き続き事業推進を要望してまいります。

【経済観光部】

鳥取自動車道の全線開通により都市圏との時間距離が短縮される中で、近年、鳥取市の企業立地における優位性が見直されており、鳥取市においてはこの好機を逃すことなく積極的に誘致活動を展開しているところです。これに伴い、近年は今までなかった大規模な企業誘致が多数実現しており、現在造成を行っている河原エリアの２つの工業団地も順調

に分譲が進んでいます。

今後は、山陰自動車道鳥取西－青谷間が全線開通することにより、旧気高郡のエリアにおいても企業立地の優位性も増してくると考えますので、今後の企業誘致の動向も睨みながら山陰自動車道のＩＣ付近での工業団地の整備も検討していきたいと思います。

（都市整備部長）

鳥取西道路の進捗状況と今後の予定について、事業者である国土交通省に確認しました。

吉岡温泉インターチェンジ（仮称）から青谷インターチェンジの区間については、用地買収および埋蔵文化財調査が平成２７年度までに完了し、工事が順調に進めば、平成２９年度中に開通可能と考えており、現在、鳥取県および鳥取市において鋭意埋蔵文化財調査を進めていただいています。用地買収と埋蔵文化財調査が完了したところから工事着手しており、鹿野町付近ではトンネル工事、橋梁工事、改良工事などの工事を実施しています。引き続きご迷惑をおかけするかとは思いますが、安全に工事を進めていきますので、地元の方のご理解とご協力をよろしくお願いします。また、残りの区間である、鳥取西インターチェンジから吉岡温泉インターチェンジ（仮称）の区間については、用地買収に向けた関係者との協議を実施しているところであり、用地買収および埋蔵文化財調査が完了したところから工事着手し事業を進めています、との回答がありました。

本市としても、吉岡温泉インターチェンジ（仮称）から青谷インターチェンジの区間については、平成２９年度開通への事業推進に向けて関係機関との調整を進めていきたいと考えています。また、鳥取西インターチェンジから吉岡温泉インターチェンジ（仮称）の区間についても、平成２９年度中に一体供用が行われるよう、国土交通省に対して引き続き事業推進を要望していきたいと考えています。

（経済観光部長）

鳥取自動車道の全線開通や、災害が少ないことによるリスク分散の面でのメリットによって、鳥取市の優位性が高まっており、現在、さまざまな優良企業に進出いただいています。最近では、市が購入した鳥取三洋電機跡地に株式会社源吉兆庵や共和薬品工業株式会社、新津ノ井工業団地には飛行機関係の今井航空機器工業株式会社、そして河原町の山手工業団地には自動車のトランスミッションの株式会社イナテック、同じく河原町の布袋工業団地には豆乳のマルサンアイ株式会社や株式会社ササヤマなど、大規模な企業に進出していただいています。ほとんどの企業が、主に正規雇用をしていただけるとのことで、３年から４年の間に、約１，８００人の雇用が見込まれています。そのため今では反対に、人材確保の方が大きな課題になっています。

鳥取西インターチェンジと青谷インターチェンジの区間が全線開通すれば、西地域は、企業にとっても大変優位性の高い場所になると考えられます。現在は河原町の山手工業団地や布袋工業団地を造成し、順調に整備や誘致が進んでいるため、まずは南地域を埋めた

いと考えていますが、今後は、南地域の企業誘致の動向や人材確保がきちんとできていくのかなどを踏まえ、次の段階は西地域と考えています。その中で、山陰自動車道のインターチェンジ付近での工業団地の整備についても検討していきたいと考えています。

（地元意見）

住民としては、生活道路として山陰道の開通を大いに期待しています。

鳥取市も、国に対して一体での供用開始を要望しているとのことですが、現状として、用地買収が難航しているなど問題はあるのでしょうか。スムーズに進みそうですか。

（深澤市長）

一体で供用開始していただけるよう、市としては国土交通省に対し機会があるごとに要望しています。それについてはまだ国土交通省は断言していませんが、吉岡温泉インターチェンジ（仮称）から青谷インターチェンジまでの区間については平成２０年代、つまり平成２９年度中には供用開始すると言っておられるので、それに関してはそのとおりに事業を進めていただけると考えています。鳥取西インターチェンジから吉岡温泉インターチェンジ（仮称）は、地元交渉等が少し難航したところもありましたが、見通しが立ってきました。一体供用が一番望ましいですが、少なくともあまり時間に開きがないよう、継続して要望していきたいと考えています。

７　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

数年前に文化ホールで開催された庁舎整備の市民説明会に参加した時に、私は、「庁舎整備よりも他にすることがある。今、手をかけなければ鳥取三洋電機が危ない。」と言いました。案の定、その４か月後に三洋電機が鳥取から撤退となり、結果的に倒産しました。鳥取市は分析と行動が遅いと思います。

鳥取三洋電機がなくなって以降、市は一所懸命「企業誘致」と言っているが、現在ある企業を潰さないことが第一だと思います。しっかり支援して、経営が危なくなったら情報を共有し、それなりのバックアップをしていくという体制でなければいけないと思います。自動車道とのぼせるのはよいが、ストロー現象も始まるし、山陰の、雪が降る人口たかが２０万人程度の都市なのだから、鳥取市はもっとしっかり現状把握し、今後のビジョンを持って将来展望を掲げなければだめです。

（深澤市長）

今後のビジョンとのことですが、総合戦略や人口ビジョンがまさにそれです。来年度からスタートする鳥取市の次期総合計画である「第１０次総合計画」も、今、鋭意策定中です。将来を見据えて、計画的にまちづくり、地域づくりを進めていくことは非常に大切です。

鳥取三洋電機についてもご意見をいただきましたが、今は三洋電機だけではなく、国内企業の中で、事業の再編等が非常に行われています。その中で、鳥取市として、地場産業や既存企業にも可能な限りの支援策を講じているところです。併せて、新しい企業も誘致

し雇用の創出や確保、拡大を図っていかなければいけないということで、地元企業の支援と企業誘致の二本柱で取り組んでいるところです。
今後も、この方針により地域経済の活性化や雇用の創出や確保、拡大に努めていきたいと考えていますし、何よりも、将来を見据えたビジョンのもとにまちづくりを進めていくことは大切ですので、今後も取り組んでいきたいと思います。

（地元意見）
木材を燃やして発電させる施設があるそうです。鳥取県内にも施設ができているそうだが、市長はそういう施設を視察していますか。
この周辺の山や川に生えているヨシでも刈ってそれをすれば、川もきれいになると思います。

（深澤市長）
木質バイオマス発電のことかと思います。原子力発電が非常に問題を抱えていることもあり、今、日本の国を挙げてエネルギー政策を大きく変えていかなければならない状況にあると思います。その中で非常に有望視されているのが、何度でも使用できる再生可能エネルギーです。例えば、太陽光を利用した太陽光発電などがありますし、ごみ処理施設で発生した熱を電気に変えて有効利用することも、非常に有望視されています。
そして、木材のチップを燃やした熱で電気を起こし、その電気を使うという木質バイオマス発電があります。隣の岡山県真庭市のように、非常に積極的に取り組んでいらっしゃる例もありますし、鳥取県内にも、木質バイオマス発電を今後進めていこうとしている企業があると聞いています。
私達は、エネルギーを今後どのように確保していくかについて、皆で真剣に考えていかなければなりません。エネルギー量としてはそんなに大きくなくても、いろいろなものを活用して地域で賄っていく取り組みが必要です。そういう取り組みを、鳥取市も今年度から進めようとしています。エネルギーの地産地消、鳥取でつくり出したエネルギーを鳥取で使うということを、今後、大いに進めていかなければならないと思っています。

（地元意見）
鹿野町内の道路で、１０ｃｍ程度の窪みが３つ並んでできている場所があります。総合支所に修繕するよう言っているが、全く修繕しません。

（産業建設課長）
ご要望の箇所は農道ですので、受益者負担が発生します。管理されているのは今市土地改良組合であるため、会長さんにも相談しましたが、この農道を使用する人は限られているので見合わせたいという返事をいただいています。ただ、何度も通報をいただいていますので、見積もりをとり、再度、土地改良組合にご相談しようと考えているところです。

（地元意見）
そこで事故が起きたら誰が補償するのですか。部落がしなければいけないのですか。

アスファルト工事をしている所から、はがしたアスファルトをもらって、ローラーで固めてバーナーであぶれば、見積もりをとるなどという大がかりなことをしなくても済むと思います。

（地域振興課長）
具体的なことはまた支所にお越しいただいて話したいと思います。

（地元意見）
高齢化により除雪機を使用する人がいないなどの理由で、あまり使わず余っている集落はないでしょうか。それを使って、除雪したいです。

（産業建設課長）
余っているものはありません。基本的には、地域からいただいた貸与の要望書に基づいて、市が集落ごとの優先順位等を勘案しながら予算を措置し、順番に貸与していきます。
まずは地域で、除雪機を管理していただける体制を整えていただいた上で、ご要望いただくのがよいと思います。

（地元意見）
自分の集落は使用していない、という所は何か所ありますか。

（産業建設課長）
毎年度末に、貸与している集落に使用状況を提出していただき、確認しています。たまたま雪が降らなかったために使用しなかったという場合を除き、使用状況は特に問題ないと認識しています。

（担当課補足：総合支所産業建設課）
除雪車が入らない市道や歩道を市民と行政が協働して除雪作業を行うことを目的として、町内会などを対象に小型除雪機を無償で貸与する制度があります。個人への貸与はしておりません。まずは、地元町内会の中で除雪区間や除雪機保管場所などを協議した上で、小型除雪機の貸与申請をお願いします。
申請の条件は、以下のとおりです。
①燃料代、定期点検代、修理代、損害保険等、機器使用に係る費用は借り受け者が全て負担すること。
② 屋根のある保管場所を確保すること。
③ 運転日誌を作成の上、毎年報告すること。
④ 第三者に損害を与えたとき、使用者が損害を受けたとき、貸借物品を損傷したときは、申請者の責任において処理すること。

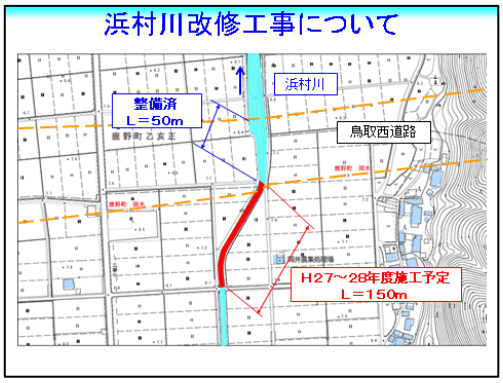
（地元意見）
浜村川の改修工事について質問します。

合併前は高速道路と併せて河川改修も行うという話だったが、遅々として進んでいません。また、河川改修した箇所にも土砂などが溜まっているが、地域の住民が高齢化していることもあり、草刈り等の作業が難しくなっています。

私達が子どもの頃は、浜村川にも勝谷川にもアユが上がってきていたが、河川改修により数箇所に堰堤ができたため、今では、魚道をつくらない限り魚が上がれない状況になっています。県河川なので難しいかもしれないが、魚道の設置をお願いします。

（都市整備部長）

浜村川の改修と魚道の設置等については、鳥取県に伝えています。浜村川については、今年度と来年度で、山陰道が川を渡る部分の上流約１５０ｍについて整備を行う予定とのことです。また、その他の区間については、浜村川水系の中期的な河川整備の目標である「河川整備計画」を来年策定予定であり、その中で、水系内における広域的な浸水対策を検討し、今後２０年から３０年で整備が必要な箇所を抽出する予定とのことです。そして、その検討を進めていく中で、魚の遡上を阻害している落差等の状況も調査し、落差解消や魚道の必要性について検討するとのことでした。



本市としても引き続き、鳥取県に対して事業推進を要望していきたいと考えています。

（地元意見）

梶掛集落に、手動で支柱を立てて堰板をする堰があります。梶掛集落と鹿野町、気高町勝見や浜村地域の約２０町歩の水をここからとっているが、高齢者が多くなり、手動で操作するのが大変です。浜村川の改修の際には、堰の自動化も併せて検討してほしいです。

（都市整備部長）

今日いただいたご意見は、後日鳥取県にお伝えし、浜村川改修と併せて検討していただくよう要望します。

（地元意見）

旧勝谷幼稚園の建物は、築後５０年近く経過し老朽化しており、樋が崩れて駐車場に落ちてくるような状況です。現在は、第二かちみ園がほぼ毎日使用しておられるが、今後どう管理していくのですか。できれば、建物を取り壊して整地し、広い駐車場にしてほしいです。

（支所長）

現在は、第二かちみ園が、障がいのある方が自立するために、いろいろな作業をしながら賃金を得る「小規模作業所」として、ほぼ毎日使用しておられます。

建物については、住民の皆様が空き店舗を活用して店を出すといった宝木地区のような

活用方法も考えられるし、鳥取市南地域では、遊休施設の中に食堂を出したり、廃校になった学校を活用して地域のサロン的な場所にするなどの実例もあります。

勝谷地区として何かに活用できないかということがあれば、鳥取市にはコミュニティビジネスや、遊休施設の活用に関する制度があるので、それらを活用することによって第二かちみ園の皆さんと一緒に新しいことができるかもしれません。総合支所も一緒に検討させていただきたいと思いますので、一度はご検討いただければと思います。

（地元意見）

鳥取西道路の工事の影響で、広域道を多くの工事車両が通行しています。広域道ができた当時は、自動車の通行に耐え得る整備ではなかったと思います。そのためか、通行の影響で道路がでこぼこしたり段差ができたりしています。また、大型車両が通行するたび、異常なほどの大きな音がするという話も聞いています。今すぐどうにかなるとは思わないが、鳥取西道路の完成時には、補修工事や完全舗装をしてほしいです。特に、勝谷地区内の勝谷トンネルから気高町の郡家トンネルまでの道路が劣化しています。工事が終わってから、そんな道は知らない、新しい道路を使いなさいということにならないよう、きちんと補修してください。

（産業建設課長）

国からは、気高町上光のガソリンスタンドから気高町会下までの区間で傷みがひどい部分については、今年１２月から来年３月頃までの間に修繕する予定と聞いています。

８　市長あいさつ

限られた時間ではありましたが、さまざまなご意見やご質問をいただき、本当にありがとうございました。

事前に、２点の地域課題をいただきました。鳥取西道路整備促進については、引き続き要望していきたいと思っています。

道の駅の整備については、通過点にならないようにとのご意見もいただきましたが、国土交通省も、地方創生の取り組みの中で全国の道の駅を地域振興の拠点に位置づけて取り組んでいこうという方針を打ち出しています。したがって、これからの道の駅は、立ち寄って休憩するだけではなく、地域振興の拠点としていろいろな機能を付加していくという発想で整備が進められていくことになると思います。昨年から基本構想・基本計画を策定し、今年度に入ってからは市民政策コメント等でさまざまなご意見もいただいています。今後も、地域の皆様と一緒に整備を進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

長時間にわたりいろいろなご意見やご質問をいただきましたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は、どうもありがとうございました。